

国際部通信 第7号



6月5日は「国際環境デー」

環境保全に対する関心を高める日として国連によって制定された。2018年のテーマは「プラスチック汚染をなくそう」2019年のテーマは「大気汚染をなくそう」だった。

発行 あさか開成高等学校
国際部
発行日：令和2年6月1日

総合的な学習・探究の時間

～これまでの振り返りも含めて、SDGsの復習をしていきましょう。～

●2018年度

テーマ 「共存～互いの違いを受け入れあえる社会を目指して」



文化の違い・障害の有無・価値観の違いなどを受け入れ、どのように共生社会を築いていけるのかについて考えました。

①「LGBT」についての講演会

実際に性別を変えた経験を持つ方より、お話を伺いました。講師の年齢が生徒たちと近く、また「性」という身近な話題でもあったため、関心を持ってくれる生徒が多かったです。夏の「一日体験入学」では、レインボーパンダの葉を、参加した中学生(現2年)に配布しました。



②障がい者スポーツ「ボッチャ」についての講演会

2年後に東京パラリンピックが開催されるということもあり、パラリンピック選手を指導されている監督の方(福島県出身)により、お話を伺いました。老若男女、障害の有無を問わず楽しめる障がい者スポーツは、これからの高齢化社会に大きく普及していくのではないかと思います。その後、これに関連し、ユニバーサルデザインに関する研修会やスポーツボランティアに参加する人たちもいました。

③難民支援募金

前年度に行った「日本に住む難民」についての講演会を受け、当時の3学年の有志が募金活動を企画し、全校生を対象に行われました。集まったお金は、彼らを支援している団体に送りました。

●2019年度

テーマ 「共存～作ってきたもの・作っていくもの」



これまで人々が作り出してきた物や歴史を振り返り、未来に何を残していくべきか、どのように共存していくべきかについて考えました。

①海洋プラスチック問題

「アクアマリンふくしま」より講師をお迎えし、いわき市の「ウミガメ伝説」をベースに、プラスチックごみに苦しむ海洋生物の実態について学びました。その後、「ウミガメへの手紙」を書いたり、「アクアマリンふくしま」のバックヤードツアーを行ったりしました。また、オリジナルのエコバックや新聞紙バックを作製しながら、プラスチックとどのように共存していくかについて考えました。



②「ヒロシマの記憶」を語り継ぐ

人間が作り出した最悪の兵器である原爆を最初に体験した広島市より、語り部の方をお招きし、ある被爆者に焦点を当ててお話しして頂きました。それと並行して、実際に体験した方々が描いた「原爆の絵」を展示しました。原爆を体験した方々は高齢化が進み、直接お話を伺える機会はほとんどありません。そんな中、物言わぬ一枚一枚の絵が、原爆の悲惨さを私たちに伝えてくれました。私たちが知らなければならないこと、伝えなければいけない記憶があるのだということ、それを風化させてはいけないのだということを教えていただきました。

～ある語り部が残した言葉～

2002年8月、がんのため69歳で亡くなられた近藤幸四郎さんは、広島で語り部として活動されていましたが、ヒロシマの記憶が次第に薄れて行くことを恐れ、生前、ある言葉を盛んに口にしていました。

「原爆被爆者への追悼の念が薄れた時から“風化”が始まる。」